

## 2020年9月期 第2四半期 決算説明会 質疑応答の要旨

2020年4月28日に開催した第2四半期決算説明会(機関投資家・アナリスト・報道関係者向け)における主な質疑応答の要旨は下記の通りとなります。

### ◆通期連結業績予想の修正について

#### Q1. 新型コロナウイルス(COVID-19)の影響と業績予想修正の前提について

A1. 3月並びに4月下旬までのCOVID-19の影響をとりまとめ、それをベースとして現時点で最も悲観的なシナリオで予測を立てている。4月に入り影響幅は週を追うごとに拡大してきており、現状で把握し得る情報から分析した結果、下期は計画比で20%の減収を見込んでいる。費用面での下期におけるコスト削減効果は限定的であり、売上の減少に対して人件費や賃借料等の固定費はそれほど変わらないため、利益への影響割合も大きくなっている。

#### Q2. 今後のマイナス影響を減らすための取り組みについて

A2. 当社の特徴として、安定した財務基盤、電通グループとの協業も併せた多岐に渡る顧客基盤、BtoCも含めた多方面での事業等があり、環境変化に強い経営体質を持つと考えている。これらの強みを活かし、具体的には広告需要の変化に適応させた顧客構成の見直しや、巣ごもり需要の獲得や顧客のDX(デジタルトランスフォーメーション)推進、EC構築支援等への対応強化を進めていく。

### ◆デジタルマーケティング事業について

#### Q3. COVID-19の影響によるネット広告市場の状況について

A3. 顧客側の状況として、大手広告主を中心に急速な景気悪化に対する費用削減が見られる。ブランド領域、パフォーマンス領域ともに広告需要は落ちており、パフォーマンス領域の顧客でもフィットネスや美容等、オンラインで集客して店舗でサービス提供を行う業種が大きく低下している。一方でアプリのプロモーションを行うゲーム、マンガ、ライブ配信等のオンラインで完結する業態の顧客については、広告費はやや増える傾向がある。メディア側の状況としては、大幅な広告需要の低下の一方で、メディアのトラフィック増加により需給バランスが変化した結果、広告単価下落の影響が出ていると捉えている。また、大手ブランド広告主によるECプラットフォームの活用の需要が増えると予測している。

#### Q4. 電通協業の今後の見通しについて

A4. 特段の減速感は感じておらず、大きなマイナス影響は現状で起きていない。商談の一部で新規提案が止まることや、業種によつての予算減は一部想定されるものの、顧客のDXの推進が起きていることを好機と捉えている。

#### ◆メディアプラットフォーム事業について

Q5. GANMA!及びその他新規事業の状況について

A5. QonQ では GANMA!が伸びた一方で、その他の新規事業は減少した。これは、まだ個別の事業における規模が小さく、四半期でボラティリティが発生しているためである。長期的には複数の事業ミックスで着実に規模を拡大できるものと想定している。

Q6. マンガコンテンツ事業における制作体制等への影響について

A6. 専属作家中心に地方在住者を含め在宅によるリモートワークを基本としており、COVID-19の影響は見られない。制作進捗の遅れも発生していない。

以上